

## 市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	10月	13日	(記入者) 山口 恵一	
取材参加者	東	石井	井本	神原	西田
	本井	山口	渡辺		
取材対象先	奈良市：観音寺の木造十一面観音立像				

所在地	奈良市六条一丁目35-10				
所有者(取材対応者)名	観音寺 取材対応者 *** 様		所有者連絡先 *** 様		
	(東照山「観音寺」住職)(個人情報守秘)		TEL ***		
取材申込	申込先・行政名など	東照山「観音寺」住職 *** 様			
市町村指定文化財	彫刻	1 軀	木造十一面観音立像 附 結縁交名 一括 2016(平成28)年3月16日 指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	本像は保存状態も良好で、制作時期と作者の推定が可能な南北朝時代初期の基準作としての意義をもつ仏像であり、彫刻史上注目すべきもの。また奈良市内に所在する中世の南都仏師の作風を伝える仏像としても貴重なため。 『奈良市HPより』				

## 文化財の状況

防火対策	設備・対策・点検・通知方法		記入者の感想		
	火災報知器が設置されている。		ご住職がおられるので早い対応が可能である。		
獣害対策	被害の有無・対策など		記入者の感想		
	特になし。		特になし。		
保存～継承へ 苦勞と今後の 課題と対策	本堂自体は明治時代の建物であるため比較的新しい建物である。建物の維持管理を考えた場合に、今後大規模な修繕等の必要もでてくるが、その際の資金の捻出に課題があるとの話があった。加えて行政に対しては、修繕等の必要が生じた場合に対応方法等お願いしたいとの話があった。				

## 取材を終えて感じた文化財修繕状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境等)

観音寺が立地する場所は古くは口柳村と言ひ、西側が奥柳村、北側が北柳村と言われている。観音寺には檀家さんがいないため、日常の維持管理(清掃活動、修繕等)については口柳村の住民さん(17軒)のお世話になっているとご住職より話があった。また、村の方が朝・夕のお参りを毎日され大切にされている。ご住職より話があった大規模な修繕等を考えた場合の修繕費用の捻出等、他の地域での取材時にも言われていた共通する内容で、大きな課題の一つであることを改めて感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	10月	13日	(記入者) 山口 惠一	
取材参加者	東	石井	井本	神原	西田
	本井	山口	渡辺		
取材対象先	奈良市：観音寺の木造十一面観音立像				

<写真撮影許可済>

文化財指定名 木造十一面観音立像 附 結縁交名 一括

本尊（指定文化財）正面	角度を変えて
 <p style="text-align: center;">本尊お顔のアップ</p>	 <p style="text-align: center;">発見された紙片</p> <p style="text-align: center;">柵穴より紙片を発見</p>
本堂	向かって本尊右に祀られている仏像群

	 <p style="text-align: center;">日除けカーテン</p> <p style="text-align: center;">彩色されている地蔵菩薩立像</p>
---	--

文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域の歴史や特徴を記入
-------------	------------------

木造、素地造り、彫眼、像高184.5cm  
 本像は等身大の十一面観音立像で、長谷寺本尊像の形式に倣い、右手に錫杖(しゃくじょう)、左手に水瓶を執り、方座(ほうざ)上に立つ姿に表され「長谷観音」の一つである。1962(昭和37)年に、像内に納められていた結縁交名(けちえんきょうみょう)の紙片が柵穴より発見された。その中に十一面観音にちなんだ「十一文」などの奉加銭(ほうがせん)多数と、「建武元□」(□は判読不能文字)の記があり、結縁勧進(けちえんかんじん)と造立時期を示唆するものがあつた。その紙片から、十一文といった零細な奉加銭の寄進によって造られたことがわかり、またおよその造立年代がほぼ1334(建武元)年であったことも推察された。作者については、作風から当代に活躍した仏師康成(こうせい)の可能性が高いことが指摘されている。康成は、慶派仏師の流れを汲む父康俊(こうしゅん)から「南都大仏師」の称号を継承した。この時期を代表する南都仏師である。  
 参考資料『奈良市HP』『奈良市史 美術編』(昭和49年)

1868(明治元)年、神仏分離令が發布された後に創建された比較的新しい寺院で、本尊である十一面観音立像は、観音寺より約150mほど北に存在した西波天神社(さいなみてんじんじゃ)が現在地に移転することに伴い、観音寺に祀られることになった。(現西波天神社は観音寺の北西隣に位置する。)  
 また、本尊向かって右側には、彩色された地蔵菩薩立像(元禄時代頃造立)の他10軀以上の仏像が祀られている。ご住職は富山県の出身で、観音寺の住職になられる際に、手を合わせる人がいなくなってしまったこの地蔵菩薩立像を忍びなく思い、地元の方にお祀りの承諾を得てお移しされた。日焼けにより彩色が落ちることを防ぐために、日除けカーテンを設置して大切にお祀りされている。境内には子安地蔵をお祀りする地蔵堂と本堂が建立されている。本尊の十一面観音立像は当地域では「柳観音」と呼ばれて信仰を集め4月17日には本尊法会が開かれる。本堂の北側には宝篋印塔や五輪塔の断片が並んでいる。  
 参考資料『奈良市史 社寺編』『奈良市教育委員会案内板』